

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践とそのための授業改善を行う。 ○児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。 ○カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、教育課程の編成に取り組む。	①「より良い授業を目指して」をテーマとして研究を推進し、教育活動に反映させる。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせ、ICT機器を授業で活用し、授業内容を充実させる。	①具体的な視点を整理し、指導案等を作成し、関係者で共有しながら、授業改善を行う。 ②保護者、専門職等と連携し、児童・生徒のニーズに応じた指導・支援及びICT機器の活用に取り組む。	①より良い授業を目指して」授業を計画・実施・評価し、授業改善に繋げることができたか。 ②児童・生徒の指導・支援にあたり、チームとして情報の共有が図られたか。ICT機器を有効に活用できたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○きめ細やかな児童・生徒指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権の視点に立った学校づくりに取り組む。	①一人ひとりの障害の状況や保護者のニーズに応じた通学支援体制を構築する。 ②意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行う。	①医療的ケアを必要とする児童・生徒の福祉車両等による通学支援を確実に実施する。 ②児童・生徒対応を日々確認するために振り返りミーティングを設定する。	①関係事業所等と連携し、医療的ケアを必要とする児童・生徒の通学支援を行うことができたか。 ②情報の共有が図られ、各自が役割を果たし、人権を尊重した指導や支援ができたか。					
3	進路指導・支援	○本人のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。 ○児童・生徒の自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する。	①進路専任、学年進路と連携し、担任が主体的に関わりながら、進路指導の充実を図る。 ②地域と接する機会を増やし、勤労観、就労観の醸成を図る。	①自己選択・自己決定ができる子どもに育てることを目指した進路指導を推進する。 ②地域に出る活動や地域に貢献する活動を計画的に実施する。	①担任が進路担当と連携し主体的に関わり、子どもの自己選択・自己決定を進めることができたか。 ②地域に接する活動を通して、勤労観、就労観の醸成を導き出せたか。					
4	地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。	①地域との繋がりを強化し、教育活動や防災活動等を通して共生社会の推進に貢献する。 ②地域のニーズの把握と支援を的確に行い、地域の特別支援教育の専門性を高める。	①防災プロジェクト、共生社会推進チームを中心に地域と繋がる活動を進める。 ②人的交流研究の準備を進めながら、効果的なセンター的機能のあり方を検討する。	①地域や企業と連携し、防災システムを構築するとともに、共生社会の推進に貢献できたか。 ②小学校との人的交流を進めることにより、組織的な体制整備と人材育成の準備ができたか。					
5	学校管理 学校運営	○地域と一体となった安全で安心な学校づくりに取り組む。 ○教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①安全に対するルールの見直しを進め、安心な学校づくりを進める。 ②意識改革、業務のスリム化・効率化を図り、働きやすい職場環境を構築する。	①感染状況等を踏まえた安全に関するマニュアル等の見直しを進める。 ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進め、ノー残業デーを徹底する。	①after コロナを見据えたマニュアル等の見直しができたか。 ②子どもたちと向き合う時間を確保するとともに、総労働時間を短縮することができたか。					